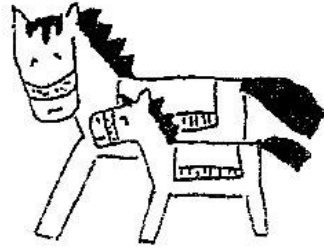


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

29年 3月 NO.268



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://oumanooyako.sakura.ne.jp/>

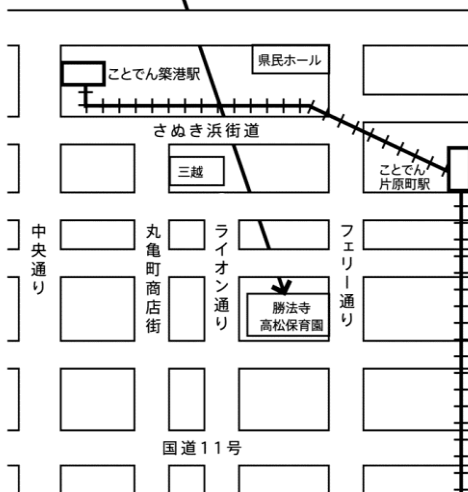
(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		3月の主な活動		～お気軽にどうぞ～
3月 4日	土	絵本と小物づくり 14:00～16:00	画用紙マジックをつくりますので 小学生もどうぞおいで下さい。	
3月 10日	金	おはなしの会 10:00～12:00	「夢にむかってはばたこう」をテーマに パネルシアターや大型絵本を読みます。	
3月 11日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って いっしょにあそびましょう。	
3月 24日	金	健康育児相談 11:00～12:00	園医師（小児科医）にゆっくり 相談できます。（予約要）	
3月 25日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も子育て体験においで下さい。	
3月 26日	日	コンサートと「続うまれる」の映画会 13:00～16:00	まなびCANにて、二胡・オカリナ・ピアノの コンサートと「続うまれる」を上映します。	

・火～土の9:00～18:00までは、園内開放して
いますので、親子でご来園下さい。
(但し、月・日曜・祭日は休み)

育児相談（月～土）9:00～18:00
しつけや子育てについての悩み、保育園生活
入園・見学についての相談もどうぞ。

香川県高松市御坊町2-2
高松保育園 地域子育て支援センター



金子みずぶ全集②
「美しい町・下」より

私のお里は
知らないの、
どこかあるよな
気がするの。

か
な
め
の
群
れ
る

海
越
え
て、
お
里
は

桃
の
花
さ
く

山
こ
え
て、
お
里
は

母
さ
ま
お
里
は

私のお里



踏み出して乗り越える

カンボジアの情熱的なスケートボーダーは、子どもへの暴力と闘う若き女性でした。逆境を乗り越え前へ進む街のロールモデル、ティンの姿をご紹介します。

なぜ軽やかに滑れるのか？

2020年の東京で初めてオリンピックの競技種目となることが決まったスケートボード。若者たちを中心に人気のあるスポーツで、思い思いのファッションに身を包みコンクリートの上を滑る選手たちは、軽やかで華やいだ印象を与えます。



しかし一方で、トリックと呼ばれる、跳ね上がったたり回転したりする技ができるようになるには、バランス感覚を養い、特有の体の動かし方を会得する地道な反復練習が必要です。

スケートボーダーたちがしばしば口にするのは、その練習の過酷さ。固いコンクリートの上で失敗し何度も身を打ち付けながら、少しずつ必要な技術を学んでいくのだと言います。と同時に、そう話す彼らの表情に滲むのは、痛みと傷を乗り越えてきた自信です。

スケートボードが社会を変える

カンボジアの首都プノンペン出身のティンは、現在 22 歳。NGO『スケイティスタン※』の先生として、スケートボードを始めた少年少女の指導を務めています。プログラムは主に 5~17 歳の女子や貧困層の子どもたち、障がいを持つ子どもたちを対象にスケートボードと教育の機会を提供するもの。目的は、困難な環境を自ら変えていけるリーダーシップの育成です。

彼女のクラスでは、1時間のスケートボードの授業の後にもう 1時間、

教養の時間を設けています。ティンの問いかけに、元気な子どもたちの意見が飛び交います。教室は熱気とエネルギーで満ちています。



暴力と闘うストリートのヒロイン

「特に女の子たちは、恥ずかしがったり、怖がったりして、自分が本当にやりたいことをできずにいるわ。わたしも同じ。自分を枠にはめてそこからずっと出られなかった。だから、彼女たちの力になりたい」

そう語るティンの人生は平坦ではありませんでした。現在ユニセフの「若者代表者会議」の一員として、カンボジア政府の「子どもへの暴力と闘う行動計画」にも参画する彼女。暴力根絶の活動に熱心なのは、じつは理由があるのだと打ち明けてくれました。

「わたしも生徒たちと同じプノンペンの貧困層の出身。それも、暴力が日常的にある家庭で育ったの。父は毎日お酒を飲んでいて。逃げ出したかった。でも、小さかったし、母を置いてはいけなかった」

そんな生活の中、スケートボードに出会いました。『スケーティスタン』で自由を見出したティン。クラスのある日以外も、毎日ユーチューブの動画でトリックを研究し、練習に練習を重ねました。そして、スケート歴3年にして先生を任されるまでになったのです。さらに今ではラジオDJとして、プノンペンの若者たちから厚い支持を受けています。

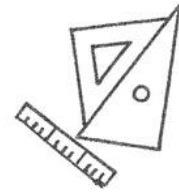
傷つけられたとき、可能性が引き出される

生徒たちに自分の可能性を引き出す術を教えてあげたいとティンは言います。スケートボードを始めたばかりの頃こんなことがありました。

「何人かの男の子から、『おまえは女だから、おれたちみたいには滑れない』って言われたわ。その帰り道、わたしは泣いた。諦めそうだった。でもそのとき決めたの。彼らの心のなかを、変えてやろうって」

——男の子に見下してほしくなかった。唇が切れて、足首を捻挫しても、へこたれなかった。彼らの言葉はわたしを傷つけたけれど、同時に強くも

した。今わたしは彼らよりも上手く滑れる。男の子たちは敬意をもって「先生」と呼んでくれる。スケートボードはわたしにいろんなことを教えてくれたわ。周囲の人と信頼関係を築くこと。友だちを作ること。そして、自信を持つこと。



変化を実現するのは自分

今やカンボジアで一番の女性スケートボーダーになったティンは、街の少年少女たちのロールモデルです。自分も辛い環境にいた彼女は、子どもたちが暴力から守られることを切に願っています。

「子どもへのいかなる暴力も必要ない。暴力が、子どもたちの未来を遮るようなことがあってはならない」

さらにこう続けました。

「若者たちは、素晴らしいアイデアや考えをたくさん持っている。でもそれをシェアする機会がないの。だからわたしたちは、暴力がどんなものか？ どうしてそれを止めないといけないのか？ もっとコミュニティや家族と分かり合っていきたいと思う」

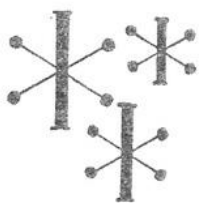
そして取材の最後“この国、社会、コミュニティになにか変化を起こしたいと思っている若者たちへ”ティンはこんな言葉を残しました。

「いつもはじまりはゼロから。何かやりたいことがあるなら、勇気をもって踏み出して。自分の考え、持てる力を掲示するために闘うの。まず自分自身と。そして時には周囲とも。問題には必ず解決策がある。諦めないで」

※スケイティスタン：2007年アフガニスタンのカブールで活動を開始。

現在はカンボジア、南アフリカを含む世界3拠点で毎週1500人以上の子どもがプログラムに参加している。

2013年、UNICEF Sport for Education Award 受賞。



(「ユニセフ・ニュース」2017より)